



手芸の会20周年 記念作品展



同会は平成17年10月に設立され、現在の会員は12名です。社会福祉会館に週1回集まり、作業の進捗状況を共有したり、制作の相談をしたりしながら交流を続けています。

5月15日から21日までの1週間、町内の手芸サークル「手芸の会 パンジー」が、創立20周年を記念した作品展を開催しました。会場となった道の駅てしお2階多目的室には、パッチワーク、クロスステッチ、刺繍、バッグ、編みぐるみ等たくさんのお作品が展示され、賑やかな雰囲気を訪れた人々の目を惹かせていました。



▲所狭しと並んだ手芸作品の数々



▲料理を味わいながら歓談する参加者たち

天食会企画 本格中華に舌鼓



5月22日、サニースペース（海岸通4）で「餃子ナイト」が開催されました。このイベントは「天食会」のメンバーである元地域おこし協力隊の三國秀美さんが、留萌市の中華料理店「萌美飯店」の店主と意気投合して企画したもので、天塩産の行者ニンニクを使用した風味豊かな焼餃子のほか、水餃子や炒飯、チャーシューといった一品料理も振る舞われ、参加した15名は本格中華に舌鼓を打ちました。

天食会と萌美飯店は今後も不定期でイベント開催を考えており、来る「天塩川しじみまつり」でもタッグを組んで出店する予定です。

鈴木知事が町長・ 協力隊らと懇談



北海道の施策として各市町村の地域で地域づくり活動を行っている方々を知事が訪れ懇談する「なのおちカフエ」が5月22日、天塩川歴史資料館で行われました。今年度、学芸員で地域おこし協力隊に着任した前川康生さんと鷹尾心さんが、鈴木知事に展示内容や町の歴史について案内説明を行いました。続いて知事との懇談が行われ吉田町長からは「町づくりは歴史の延長」としての地域振興策について、元地域おこし協力隊の三國秀美さんからは鍼灸師、森林資源の活用に向けた活動、学芸員・協力隊の前川さん、鷹尾さんは地域の歴史文化を活用した今後に向けた活動や取組に関する意気込みを語りました。



▲鈴木知事が歴史資料館にて吉田町長、地域おこし協力隊らと懇談



▲火災防御訓練で放水を実演する団員ら

消防団 春季消防演習



5月25日、天塩町消防団の春季消防演習が実施されました。朝10時、天塩川河川公園に集合した消防団員ら26名は、点呼や点検、消防操法訓練として小型ポンプ操法の演習等を行ったのち、新開通7丁目付近を火元と想定した火災防御訓練を実施しました。鳴り響くサイレンとともに消防車が次々と訓練場所に到着し、素早くホースを接続し放水作業に取り掛かる団員らの頼もしい姿に、来賓をはじめ見学に訪れた住民らも目を引いていました。

天塩高で 町民講師が講話



天塩高校では「総合的な探究の時間」授業枠で町民講師の講話から新しく挑戦する職業人の考えや知見から学ぶ「探究人講話」（まち・ひと・しごと創生）を5月26日に実施し、全校生徒約70名が受講しました。講師は、(株)宇野牧場社長の宇野剛司さんは酪農での6次産業化、商品開発の経緯とその過程で得た経験について、(有)マルタク社長の竹元祥さんは前職の証券会社での営業職、新たに挑んだ畑作農業で学んだビジネスにおける競争戦略について、町立病院薬局長の寺門義典さんは趣味や好きなこと極めていくことの大切さや鏡沼の水質浄化策の提案について語り、生徒からの質問を通じた意見交換を行いました。



▲（右から）講師を務めた宇野さん、竹元さん、寺門さん

パトカー展示や ヒーローショー



▲この日行われたイベントの様子

5月31日、サニースペース(海岸通4)で毎月恒例のコミュニティカフェ「e's of Tet+(テトテプラス)」が開催されました。この日は天塩警察署によるパトカー展示と撮影会、5月にオープンしたばかりの町内のマツサージ店「香歩(カール)」の出店、劇団稚童(稚内市)によるオリジナルヒーローショー「宗谷戦隊ワツカマン」の公演などが行われ、集まった人々は飲み物や軽食を味わいながら賑やかな時間を過ごしました。遊びに来たてしお仮面もポーズをとったり写真撮影に心じたりして楽しんでいました。



健康づくりへの 理解深める



6月5日、各町内会の保健推進員で構成される「健康づくり推進協議会」の総会・学習会が行われました。この協議会は平成7年(1995)年に設立され、今年で30周年を迎えます。学習会には12名が参加し、30年間の活動のあゆみと保健推進員が果たす役割を振り返ったあと、町の健康課題である「肥満」についての講話を聴きました。天塩町の肥満率が道内ワースト1位であることや、子ども世代から既に肥満が始まっているという衝撃的な事実が語られる。講話の後に行われたグループワークでは、今後健康のために学んでみたいことについて積極的意見が交わされました。



▲子どもの肥満率を示すグラフに注目する保健推進員ら

日藝学生ら 町紹介映像撮影



▲日藝学生らによる天塩 PR 映像ロケの様子

日本大学芸術学部(日藝)写真学科の学生兼映像監督のフジムラヒヨリさん、同学科卒で東京を拠点に写真家として活躍している野口花梨さん(撮影)、女優の瀬戸璃子さんが来町し、6月6日から2日間、夕映、道の駅、放牧地、河川公園など町内各所でロケや移住者インタビュー等の撮影を行いました。後に編集を行い、町の特産品(返礼品、観光スボット、地域おこし協力隊等移住の魅力を紹介する映像作品を公開する予定です。フジムラさんと野口さんは共に大学時代、雄信内地区の「おのつふ農園」を幾度にもわたり滞在したことがきっかけで、町の自然や人の魅力を映像作品として表現することになりました。

帯畜大生が来町 酪農研修体験会



6月7日から3日間、天塩町営農担い手協議会(事務局・農林水産課)主催による酪農研修体験会が行われ、帯畜産大学の学部生と大学院生6名が来町しました。1日目は黒川牧場を訪れ、搾乳ロボット導入による労働負担を少なくした経営手法を学びました。2日目は高原牧場にて放牧酪農における草地管理についてファームウォークを行い、直に得られるデータによるほ場管理についてレクチャーを受けた後、役場大会議室にて高原弘雄氏と留萌農業改良普及センター指導員の坂口哲也氏を講師に酪農経営について研修を受け、意見交換を行いました。また、カヤックなどのアクティビティも体験しました。



▲高原牧場で草地管理について説明を受ける学生ら

バレー少年団 全道大会出場



▲町長に出場報告を行った団員一同

バレーボール少年団「天塩フェニックス(男子・女子・混合)」が、6月28・29日に開催される「スミセイカップ」カップ JVA第45回全日本バレーボール小学生大会北北海道大会」に留萌地区代表として出場することになり、6月10日に団員一同が役場を訪れ吉田町長に出場報告を行いました。男子主将の吉田征叶さんは「最後まで諦めずに戦って全国へ行きたい」、女子主将の嶋崎愛弓さんは「決勝まで登り詰め、優勝して全国を目指す」と意気込みを語り、町長は「留萌地区の代表として、力を発揮して頑張ってきてください」と団員らを激励しました。